



福島県農業

No. **589**

題字 福島県知事 佐藤雄平



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

9

2013

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■共 生



東北・北海道ブロック 平成25年度林業グループコンクールを ふりかえり

全国林業研究グループ連絡協議会
会長 田 爪 弥 栄

W e l o v e f o r e s t 皆さんこんにちは

九州宮崎県出身、全林研 第六代会長の田爪でございます。

この度は平成二五年度、東北・北海道ブロックのグループコンクール大会におきまして開催地としてご協力をいただき誠にありがとうございました。

平成二三年三月十一日に発生した東日本大震災、その年の開催地は福島県でありました。開催することすら問題ではないか、全林研として大きく揺らぎました。しかし被災地の皆様の復興に対する意思の強さ、「必ず復興させます」その強い思いに、こんなときだからこそ大会を開催しなければと、逆に被災された皆様から私達は大きな勇気と感動を受けました。

こうして二年前は、急遽、北海道に開催場所を移し、開会となりました。この年の大会におきましては東日本大震災復興を目指しての大会宣言を決議し、二年後、福島県の地で復興祭として大会を開催することが満場一致で決定しました。

この度の本大会は、そうした想いを込めた大会となったのであります。大会のグループコンクール代表選出にいたしましたは、岩手県の盛岡市森林組合に代表選出が決定いたしました。やはり参加者の気持ちは、原発汚染対策ほどの程度まで進んでいるのかに関心があつたかと思われました。……「百聞は一見に如かず」……

「東日本大震災及び原発事故から学ぶもの」と題し基調講演をいただきました。ふたばグリーンレディースネットワーク2000代表早矢仕恵子様の現場の生の声そして、林地除染作業視察、その未来を想像しますと、まさに暗雲の気持ちがこみ上げ、参加者一人、一人も同じ気持ちを抱いたのでは、ないでしょうか。

一日も早い復興、その場しのぎの気休めとしか考えられない国や東電の対応の改善、多くの被災地の皆様の声をもっともっと尊重した復興計画を進めるべきであると強く感じたところでもあります。

この大会を通じて全林研は、これからも多くの林業仲間とともに山を守り、故郷を守り如何に次世代へ健全な森林としてバトンタッチしていくか、語り合い、追及していく事が今後の林業人としての大きな使命といえるでしょう。

今、我が国の林業は国が示すとおり森林、林産業の再生であります。

林業は長期的産業、五〇年、一〇〇年の計であります。今後、福島県下の完全復興にはまさに林業と同じくらしいの気持ちが必要不可欠であります。千里の道も一歩から、迷い道にそれず、福島県の県民の皆様方の気持ちを一つに、全てを再生させることを信じてその一歩一歩をまっすぐに突き進んでももらいたいと考えます。

最後になりますが、この大会を開催するにあたり、ご尽力いただきました福島県、福島県林研連の皆様方に厚くお礼を申し上げながら次回の林研大会での再会を願ってお礼の言葉といたします。

ありがとうございます。

《 も く じ 》

とびら		東北・北海道ブロック 林業グループ	
東北・北海道ブロック		コンクール 福島県で開催……………	5～6
平成25年度林業グループコンクールをふりかえり		林業研究センターだより……………	7～8
全国林業研究グループ連絡協議会		福島県の治山事業と保安林……………	9
会長 田 爪 弥 栄……………	1 ◆	普及指導員通信……………	10
全国森林環境税創設促進議員連盟		緑の募金コーナー……………	11
第二〇回記念大会 南会津町で開催……………	2	木材市況・ふくしま東西南北……………	12
放射線対策について……………	3	はなしのひろば……………	13
第38回福島県林業祭(林業復興応援イベント)の開催 ……	4		

全国森林環境税創設促進議員連盟 第二〇回記念大会 南会津町で開催

Ⅱ 南会津農林事務所 Ⅱ

全国森林環境税創設促進議員連盟の第二〇回記念大会(定期総会)が平成二五年七月十一日(木)、南会津町の御蔵入交流館において開催され、全国の市町村議会等から約三〇〇名が出席しました。

同議員連盟は、全国三二二市町村議会が加盟しており、森林の持つ公益的機能の維持・増進を図り山村地域の市町村による森林の整備・保全を実施していくため、市町村財政の安定的財源として「全国森林環境税」の設立を目指し、平成六年度より活動しています。

総会では、会長である板垣一徳村上市議会議長の開会の挨拶に続き、大宅宗吉南会津町長の歓迎の挨拶、佐藤雄平福島県知事等から祝辞をいただくとともに、地方の新規財源となる全国環境税の早期実現と石油石炭税の一定割合市町村への交付等を目指すことが宣言されました。

続いて、日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員による「今後の地方と林業の活性化」と題した記念講演や、志賀稔宗南相馬市議会議員による東日本大震災についてのシヨート

スピーチが行われました。

また、本大会に先立ち同日、森林環境税モデル林整備が南会津町の旧中山峠付近の森林において行われました。これは、本大会を契機として本県の森林林業と森林環境税の取り組みを全国にPRすることを目的として、森林環境交付金事業の重点枠を活用し実施されたものです。

先ず、地元田島高校環境科学コースの二年生二一名による除伐木の整理集積や遊歩道へのチップ敷設が行われ、作業終了後には農林事務所職員による山林レクチャーで当日の作業の意義や森林の働き、森林浴の効



議員連盟総会



集合写真



作業の様子

用等についての講話とそれらに関連しフォレストセラピーで用いられるストレスをチェックすることができると、作業終了後には農林事務所職員による山林レクチャーの実演を行いました。その後、議員連盟会長や南会津町長、同町議長、南会津農林事務所所長も加わり記念看板の除幕式が

行われました。

これらの活動は、午後からの総会会場においてスライドショウや写真の展示により紹介され、会場の参加者の方々にも活動が報告されました。

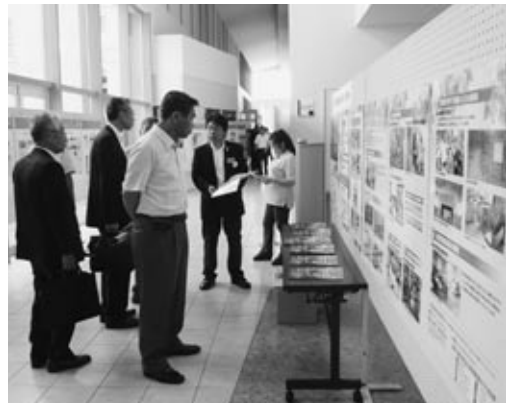
また、それらに併せて福島県の森林環境税の取組みについても大会会場においてパネルを展示しました。多くの方々に興味深そうに立ち止まり、熱心に説明を聞いていました。

十月には関連行事として、きのこ料理教室や野生きのこの鑑定会も予定されており。野生きのこの鑑定会は一般参加を募集しておりますので、興味のある方は是非ご参加ください。

【問い合わせ先】

南会津町役場農林課

TEL〇二四一―六二―六二二〇



パネル展示

放射線対策について

ふくしま森林再生加速化事業の概要

森林整備課

1 はじめに

原発事故によって森林が広範囲に放射性物質で汚染されました。この放射性物質に対する不安により、県内の森林においては、震災前に比べ森林整備や林業生産活動が停滞している状況にあることから、森林の有する水源かん養や山地災害防止等などの公益的機能の低下が懸念されます。

このため、森林整備と放射性物質の除去・低減を一体的に推進する取組について効果を検証するため、県内三地点に設定したモデル地区において、間伐等の森林整備と整備による放射性物質の低減効果調査を行いましたので内容を紹介します。なお、この調査結果は今年度より実施しているふくしま森林再生事業の実施に活用されます。

2 調査内容

間伐等の森林施業と施業に必要な路網整備を一体的に実施することに



広葉樹更新伐施業地

より、森林の公益的機能を維持しながら放射性物質の低減をすることができないか、別表のとおり県内三箇所六四・〇八鈔において、森林施業を行い、その効果について以下の調査を行いました。

- (1) 空間放射線量率の変化（施業前後・完了後に測定）
- (2) 土壌・木材の放射性物質濃度
- (3) 空中から放射能の分布状況を把握（ヘリコプター測定・施業前後・完了後に測定）

3 調査結果

(1) 森林における空間放射線量率の分布については、地形や標高等条件に一定の傾向は見られなかった。常葉地区およびいわき地区では、標高六二〇メートル以上、東向き斜面で空間放射線量率が高くなる傾向があった。都路地区については、空間放射線量率と標高や斜面の向きとの間に相関関係は認められなかった。

(2) 空間放射線量率（地上高一メートル）と樹木部位毎放射性セシウム濃度の関係は、ほぼ正の相関が見られた。

(3) 原発事故後約一年半後時点での樹木内部（辺材・心材）の放射性物質濃度は最大でも二八〇ベクレル／キログラムと低濃度であった。

(4) 森林内における放射性物質の分布は、落葉・土壌に約八〇％程度の放射性物質が分布していた（林野庁の測定結果と同様の傾向）。

(5) 間伐等の森林整備によ

○実施箇所と主な施業内容

3箇所 64.08ha

No.1	田村市常葉町西向字小屋畑地内	面積21.09ha	線量率3.82~0.30μSv/h
○ 内訳	スギ17.35ha	アカマツ0.68ha	広葉樹2.33ha
○ 施業	間伐（20~30%） 針葉樹更新伐 植栽（スギ）	5.24ha 3.95ha 4.68ha	間伐（30%以上） 広葉樹更新伐 作業道
			未立木0.73ha 8.84ha 2.33ha 8,325m など
No.2	田村市都路町古道字山口地内	面積27.99ha	線量率1.43~0.49μSv/h
○ 内訳	スギ5.43ha	ヒノキ0.37ha	アカマツ1.07ha
○ 施業	間伐（スギ30%以上） 針葉樹更新伐 落葉除去 作業道	5.43ha 1.07ha 10.47ha 14,342m	間伐（ヒノキ30%以上） 広葉樹更新伐 植栽 など
			21.12ha 0.37ha 21.12ha 11.72ha
No.3	いわき市川前町上桶売地内	面積15.00ha	線量率0.52~0.19μSv/h
○ 内訳	スギ10.56ha	広葉樹4.44ha	
○ 施業	間伐（20%未満） 間伐（30%以上） 落葉除去	2.11ha 6.06ha 3.00ha	間伐（20~30%） 広葉樹更新伐 作業道
			2.39ha 4.44ha 4,304m など

4 今後の進める課題等

(1) 森林における放射性物質は、落葉層から土壌への移行が進んでいくと予想されるので、継続してモニタリングを実施するとともに、森林における土壌の移

り、放射線の自然減衰率以上に空間放射線量率が三〜一二μSv/h以下に減する結果を確認しました。



スギ間伐施業地

5 実証結果の活用

今後、これら課題に対する対応を、国など関係機関と連携しながら進め、間伐などの林業的手法により森林整備と放射性物質削減を一体的、効果的に進める方法を明らかにします。

- (1) 動状態を明らかにし、土壌の森林外への流出の防止を検討すること。
- (2) 土壌へ放射性物質が移行し空間放射線量率が高い場所については放射線の遮蔽について検証を進めること。
- (3) 植栽木や萌芽枝の放射性物質濃度測定を継続的に行い、放射性物質の移行状況を確認すること。

第三八回 福島県林業祭

（林業復興応援イベント）の開催

1 開催日

平成二五年十月二六日(土)～二七日(日)

2 会場

福島県林業研究センター、ホテルバーデン

3 内容

【復興支援】

- (1) 林業復興講演会（ホテルバーデン二七日(日)十時～十二時）
- (2) 農林水産業の復興に向けた地域産業6次化PR
（ふくしまマルシェ号）

【催事】

- (1) 林業関係表彰式
（研修本館二六日(土)十二時～十二時）
- (2) イベント・体験・PR（模擬上棟式、森のコンサート、チェーンソーアトショー、木のおもちゃワークショップ、きのこ料理教室、林業研究センター公開等）
※2013ふくしまライシーホワイ ト、ゆるキャラも来るよ！
- (3) 農林水産物展示販売

【併催行事】

- (1) 森林再生に対応した高性能林業機械等研修会
- (2) 森林所有者経営相談会
- (3) チェーンソー選手権

入場は無料です。皆様、お誘い合わせのうえご来場ください。

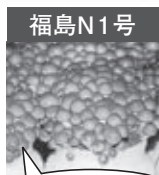
お問い合わせ先 第38回福島県林業祭実行委員会事務局
（県庁林業振興課 電話〇二四一五二二一七四二二六）
※詳細については、後日チラシ等でお知らせします。



昨年開催状況（模擬上棟式）

きのこで地域を元気に (公社)福島県森林・林業・緑化協会 きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)

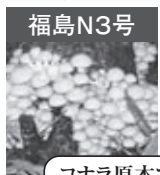


安定多収量

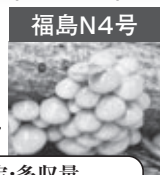


大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)



コナラ原木で安定・多収量
食物繊維、ペクチン様物質豊富



○その他各種種菌

- 菌床
 - ・シイタケ
 - ・ハタケシメジ
 - ・ムラサキシメジ等

○マイタケホダ木 ○栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
E-mail: f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL: http://www.f-kinoko.org

東北・北海道ブロック

林業グループコンクール 福島県で開催

福島県、県林業研究グループ連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会主催の東北・北海道ブロック林業グループコンクール及び第53回林業グループ交歓会が、8月1日から2日にかけて二本松市の岳温泉「陽日の郷あづま館」をメイン会場として、県外より60名、県内50名の計110名が参加し開催されました。

このコンクールは、林業技術の向上・林業経営の発展のために自主的な活動・研究を実践している林業グループが、日頃の体験・成果を発表し、林業グループ相互の発展・資質の向上を図るもので、各道県の代表7グループが発表し、本県からは、伊南地区山菜き



発表を熱心に聞く参加者達



発表の様子（岩手県）

のこ栽培研究会（南会津町）が発表しました。特に優秀な実績を上げたグループは東北・北海道ブロックを代表し、来年2月に東京都で行われる全国大会へ出場します。

コンクールは、福島県林研グループ連絡協議会蛭田会長の開会宣言の後、福島県農林水産部水戸次長および全国林業研究グループ連絡協議会田爪会長より主催者挨拶があり、林野庁森林整備部研究指導課の三浦普及教育班担当課長補佐の祝辞に続いて、各県の発表が行われました。

各グループの発表課題と概要は、次のとおりです。

北海道 くりやま女森^{めもり}一の会 『楽しみながら地域への貢献を』

女性林業グループとして、飾り炭の制作、シイタケ等の原木栽培、木工クラフト・森林教室など、様々な活動に取り組んでいる。一般の女性の視点で地域の豊かな森林の価値を感じることができる点を強みとして、今後も活動の幅を広げていく。

青森県 貝守林研Jr 『3世代の中心世代としての将来ビジョン ～祖父母・両親の思いを背負い、子供たちにつなげる～』

緑の少年団の育成を目的として発足。貝守地域の世代の異なる他の林業グループと協力し、森林の保育作業、木工教室、森林・林業体験学習会の開催などを行ってきた。3世代交流も視野に入れて、山村の良さを感じられるような地域づくりに取り組んでいる。

岩手県 盛岡市森林組合青年部 『森づくりの絆を目指して～森・人・街をつなぐ「絆の輪」プロジェクト～』

一般市民、子供達に、植林体験、枝打ち、薪割等森林体験や森林学習を行っており、岩手県の主要樹種であるアカマツや廃材を使用したリース作りに重点をおく。生活に身近なリースの作成を通し、森林への普及啓発、「まちと森、人と森、人と人が繋がり」社会的な森づくりの循環をひろげている。

秋田県 鹿角森林組合青年部

『既設作業道における簡易横断排水板の設置効果について』

森林整備地域活動支援交付金制度の利用状況をまとめ、簡易横断排水板の設置の点検、また作業道での洗掘状況を調査し取り組みをすることで、洗掘の原因を考察した。

そのような森林整備が、最終的に森林所有者への負担軽減に繋がっている。

宮城県 鳴子林業研究会連絡協議会

『地域にねづいた林研活動 ～鳴子林業と「木」の合う仲間たち～』

多くの市民、林業後継者が森林に目をむけ、触れ合える機会を提供している。

小学生の林業体験活動、緑化活動、地元でのイベント開催、木質バイオマスへの理解を深めてもらう為の勉強会。結果、「木」のあう仲間の輪をひろげ、地域へ啓発している。

山形県 朝日町愛林会

『今まで頑張ってきた人から これから頑張ってください人へのたすきリレー』

若い世代の人たちに森林での作業や林業体験を通じ、森林の管理や林業について理解してもらうよう、大学生との意見交換、町の森林整備、小学生対象にきのこ菌打ち体験等を行い、林業への興味を深めてもらう。

福島県 伊南地区山菜きのこ栽培研究会

『特用林産施設の活用ときのこ栽培による地域振興』

遊休農地を活用したきのこ栽培を行い、菌床栽培の技術習得から始め、行政機関等と産業プロジェクトを立ち上げ、生産から販売へと取り組んできた。結果、生産は伸び、県内外の委託販売等も拡大してきている。

各グループの発表後、福島県林研グループ連絡協議会所属、ふたばグリーンレディースネットワーク2000代表早矢仕恵子氏が「東日本大震災及び原発事故から学ぶもの」と題して講演を行いました。

その後、講評と審査結果発表があり、最優秀賞には、盛岡市森林組合青年部（岩手県）が、次点の優秀賞には伊南地区山菜きのこ栽培研究会（福島県）が選出されました。

発表では、各グループが地域に密着した活動を継続することの大切さ、各地域で課題はありますが、その課題を克服して活動につなげていく為の精力的な取り組みや熱意が強く感じられました。

二日目の現地視察は、大玉村のふくしま県民の森「フォレストパークあだたら」で行われました。福島県林業振興課松崎主任主査より『福島県の森林再生への取り組みについて』、公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団の弦間事務局長より『フォレスト・エコ・ライフ財団の取組みについて』お話をいただいた後、フォレストパークあだたらの施設を見学しました。



表彰の様子



講演をする早矢仕氏

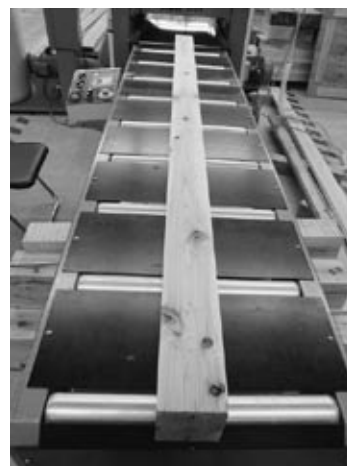
東日本大震災及び東電の原発事故から二年が経過した今、早矢仕氏の被災体験を聞いて、またフォレストパークあだたらでの森林除染の取り組みを身近に見ていただくことで、福島県の復興のために欠かせない森林再生、そこには多くの課題があるということを知っていただく貴重な機会になったと思います。

遠方より多くの方に参加していただき、盛大にコンクール等が開催できました事を感謝して、来年度開催予定の岩手県へバトンを渡したいと思います。

平成二三年東日本大震災に伴う、東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質は、福島県内の森林にも広範囲に降下し、森林への放射能汚染被害、林業の停滞と大きな影響を及ぼしております。林野庁からは、降下した放射性物質は樹木の幹表面付着にとどまらず、幹材内部の汚染についても公表されております。放射性セシウムは樹木内部でも移動するため、幹材の汚染状況も変化する可能性があります。このため、放射性物質に汚染された木材試験片を各種水溶液に浸漬する試験を行い、調査することにより木材中の放射性セシウムの軽減方法を検討しました。

1 はじめに

林業研究センターだより 浸漬処理添加物質別 スギ、ミズナラ材の 除染効果



県林業研究センター林産資源部
主任研究員 伊藤 博久

2 試験方法

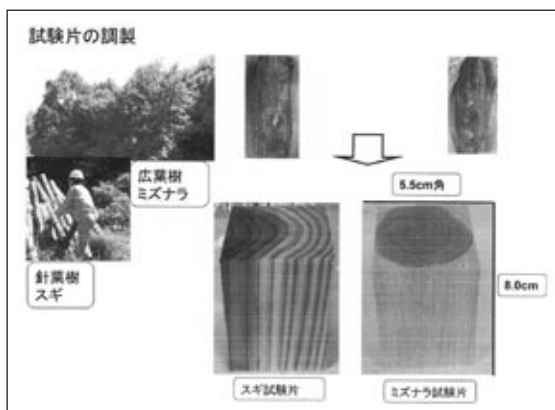


図1 試験片の調製

(1) 試験片の調製
林業活動が困難となっている、福島県の計画的避難区域から平成二四年八月に採取したスギ及びミズナラ



図2 浸漬試験

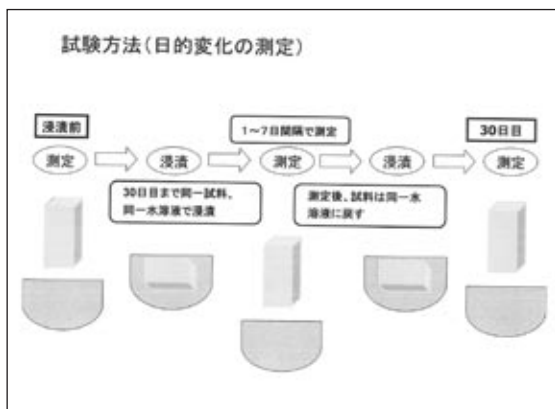


図4 日的变化の測定

(2) 浸漬試験について
試験片は、無添加の水（水道水）を対照として、プルシアンブルー、リン酸二水素カリウム、炭酸カルシウム、市販衣類用洗剤、にがり、粘土（陶芸用粘土（仁清））の六種類の添加物質の一・〇％水溶液に浸漬しました。浸漬した試験片のセシウム134とセシウム137の濃度はそれぞれ三〇日、六〇日、九〇日経過時に取り出し（図2）、同一試料についてNaIシンチレーションスペクトロメーターを用いて測定しました（図3）。各試験区の繰り返しは三回としました。

併せて、超音波洗浄機で一時間前処理を行った試験片においても同様の調査を繰り返しました。



図3 測定機器

測定結果

浸漬処理日数別試験片当たりの放射性セシウム量(Bq/試験片)及び処理前と90日目に対する減少率(%)

添加物質	樹種	処理前	30日目	60日目	90日目	減少率
対照(水)	スギ	236	139	130	124	48%
	ミズナラ	44	29	27	25	43%
プルシアンブルー	スギ	637	287	255	244	62%
	ミズナラ	63	36	36	34	46%
リン酸二水素カリウム	スギ	459	62	68	63	86%
	ミズナラ	69	22	16	15	79%
炭酸カルシウム	スギ	213	97	81	73	66%
	ミズナラ	52	28	23	25	52%
市販衣類用洗剤	スギ	386	79	71	70	82%
	ミズナラ	42	17	16	16	61%
にがり	スギ	140	29	28	22	84%
	ミズナラ	29	13	9	6	78%
粘土	スギ	218	60	56	46	79%
	ミズナラ	45	16	16	12	72%

注意:各区の値は3試験片の平均値

図5 浸漬処理後試験片当たりの放射性セシウム量

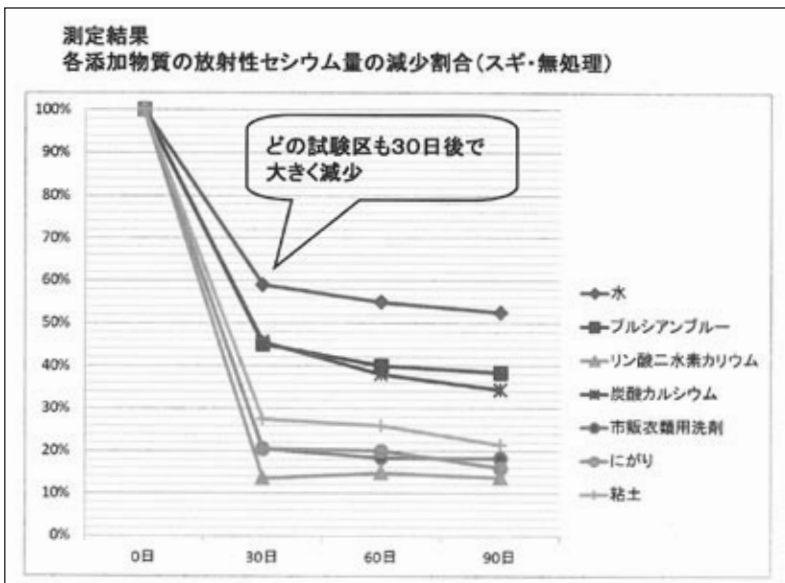


図6 放射性セシウム量の減少割合

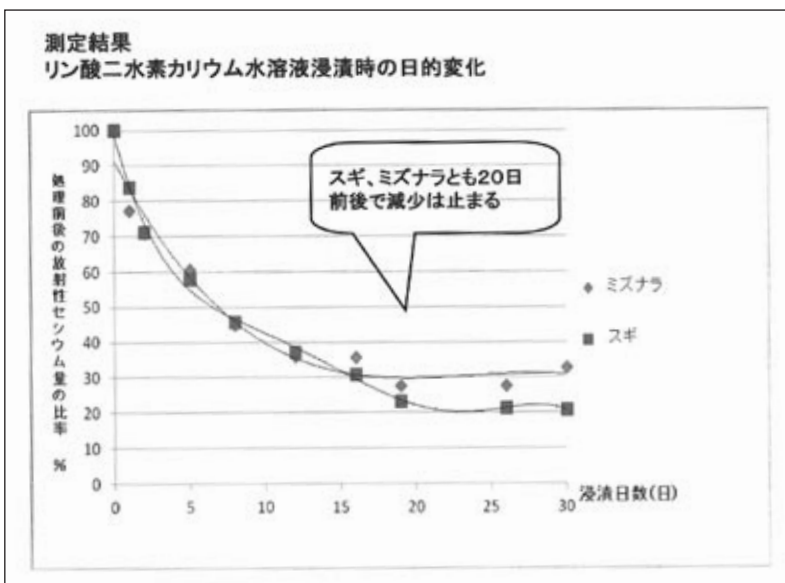


図7 浸漬時の日的变化

3 結果

また、リン酸二水素カリウム水溶液の浸漬については、一〜七日間隔で三〇日間の測定を行い詳細な放射能濃度の減少率を別途、日的变化の測定を行いました(図4)。

一試験片当たりの放射性セシウム量一四〇〜六三七ベクレルのスギを供試材とし、無添加の水を対照に六種類の添加物質溶液に浸漬しまし

た。その結果、放射性セシウム量は対照区を含め全区で処理前より減少しましたが、プルシアンブルーを除く四種の添加物質区は対照区より低い値を示し、九〇日目ではにがり区、二二ベクレルが最も低い値となりました。九〇日目におけるリン酸二水素カリウム区は、処理前の一四割の放射性セシウム量になり最も減少率が大きくなりました。ミズナラの放射性セシウム量、減少率ともにスギとほぼ同様の傾向が認められまし

た。浸漬の前処理として行った超音波洗浄処理は、全試験区において三〇、六〇、九〇日目とも除染効果が認められませんでした(図5、6)。放射性セシウム量は、全処理区において三〇日目以後の大きな変化がなかったため、リン酸二水素カリウム区について三〇日目以内の減少割合を求めた結果、スギ、ミズナラともに二〇日目で初期値の約二〇割に達し、その後ほぼ一定となりました(図7)。

4 おわりに

今回の木材試験片を用いた試験結果では、リン酸二水素カリウムとにがりの水溶液を用いた浸漬により、除染効果が期待されることがわかりました。平成二五年度では実大相当材によりこの二添加物質について効果と実用性を検討する予定です。

福島県の治山事業と保安林（第4回）

林業技士（森林土木）
高橋 榮

連載 “福島県の治山事業と保安林”

A 治山事業

- 一、治山事業の必要性
- 二、山地治山事業
- 三、山地治山県単独事業
- 四、県内地方別治山事業実施の主な特徴
- 五、治山事業のはじまり

六、過去の代表的な災害

- 七、治山事業の将来への展望

B 保安林

- 一、保安林の種類と目的
- 二、保安林に指定された森林の規制
- 三、保安林の特例措置等
- 四、保安林の解除

五、保安林の管理

- 六、これからの保安林

C 東日本大震災による林地被害とその対応について

- D 治山事業に対する時代の要請と技術の進歩などの変遷に対する対応について

C 東日本大震災による林地被害とその対応について

平成23年3月11日午後2時46分頃、宮城県の三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の、国内観測史上最大の巨大地震が発生し、北日本から関東にかけての広い範囲で、強い揺れと大津波に襲われた。

本県でも浜通りや中通りの広範囲で、震度6強の強い揺れと、沿岸部では10mを超す巨大な津波が発生し、各地で住宅の倒壊や山腹土砂崩壊や土砂流出等が発生するとともに、死者、行方不明者が多数出て、大災害となった。

この地震及び津波による林地被害とその対応は次のとおり。

1. 治山関係の被害状況（H23.12.15確定現在）

被害名	箇所数	被害額（千円）	備考
林地被害	121	3,385,752	山腹、溪間など
治山施設被害	22	35,923,677	根固工、護岸工、山腹基礎工など
計	143	39,309,439	

※警戒区域内は未確認

2. 災害査定内訳

施設名	箇所数	査定額（千円）	24年度予算	うち繰越分	備考
治山施設	12	5,580,627	4,037,459	2,156,459	

3. 災害復旧状況

事業名	H23決定	H23実施	H24繰越額（千円）	H24実施	H25以降実施予定
災害関連緊急治山	(8) 1,068,800	(8) 185,839	749,469	(7) 567,798	(3) 181,235
林地崩壊防止	(8) 148,249	(3) 29,383	102,925	(5) 102,925	

※（ ）内数字は箇所数

(1) 海岸防災林の被害状況

①南相馬市鹿島区



被害前



被害状況

②相馬市松川浦



被害前



被害状況

(2) 山腹崩壊による被害状況 白河市大信隈戸字ザラウ保地内



被害状況



復旧状況

新「ほっと」スペース創出事業の 実施について

■県中農林事務所

林業普及指導員 加藤 修

県民の目に触れやすい公共施設等に県産材製品等を利用・展示し、木の温もりや、やすらぎのある空間を設けることにより、県産材利用の必要性について普及啓発を図ることを目的として平成18年度に始まった「ほっと」スペース創出事業は、平成23年度より新「ほっと」スペース創出事業となり、同執行方針に「管内の高等学校等の教育機関と連携した製品の試作について積極的に検討すること」が追加されました。

そこで、連携した製品の試作について各校に打診したところ、県立清陵情報高等学校より要望がありましたので、同事業と併せた木材普及の取組みについて紹介します。

清陵情報高等学校は、昭和63年に創立された県内唯一の情報教育推進モデル校で、情報に関する知識・技術の習得とその活用能力の育成を図り、高度情報通信社会において活躍できる人材を育てることなどを目的としております。

このうち工業系で学んでいる3年生の生徒たちには、班ごとに課題を製作する授業があります。今回、野球部に所属する生徒からなる班から、木製ベンチを製作したいとの希望があったため、当該事業につながりました。

生徒たちが要望する木製ベンチの材料の提供にあたり、同校の機械、器具等を聞き取り材料の仕様や加工方法について提案しました。また、材料を提供するだけでなく生徒の森林・林業の理解を深めるため、生徒たちに「木の話」をすることも提案し了承を得ました。

「木の話」は、まず生徒たちがなぜ木のベンチの製作を計画したのか、その理由を尋ねることから始めました。『グラウンドのベンチが壊れたことから補修するか新しくするか検討し、木製ベンチであれば自分たちで作れることから計画した』、また『自分たちが使うだけでなく市内の病院にプレゼントする計画であること』を話してくれました。それをきっかけに、木材に対するイメージや木が何に使われているかなどを質問しながら、木材の特性である柔らかさや強さ、断熱性による触れたときの暖かみ、燃えること、腐食することなどを、金属やプラスチックなどの素材と比較しそれぞれの持つメリットデメリットについて話しました。そのほか、日本において木材消費量で一番多いのは紙の原料であるが、世界レベルでは燃料として消費されることが多いことや、山にある木を適正に伐って適正に使うことが大切であることも話し、木材に対する新たな理解を得られたと思います。

なお、ベンチの製作過程は、12月に行われる校内の成果報告会で発表する予定で、生徒たちは夏休みを返上し製作に取りかかっていると担当の先生より状況を教えていただきました。

今回の取組みが、生徒たちに木材の良さを改めて認識し、木材を使うことが重要であることを理解してもらえただけでなく、生徒たちの製作する木製ベンチが多くの人に利用され、木材の良さを感じてもらえることを期待しております。

今後も、森林整備や間伐の重要性だけでなく、木材利活用の必要性も併せて普及に努めていきます。



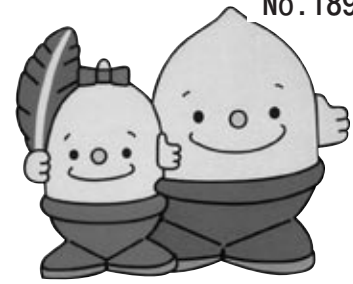
普及指導員による「木の話」の様子



生徒たちが木製ベンチを製作している様子

緑の募金コーナー

No.189



I 平成二五年度春季緑の募金実績がまとまりました

「おかげさまで昨年を超える募金をお寄せいただきました。御礼申し上げます。」

一昨年は東日本大震災等の影響により、春季の募金活動を自粛したため、二三年度の募金額が約一、一六八万円と二二年度に比べ大幅に減少しましたが、昨年、春季の募金活動を再開したところ、約五、五四九万円と年度目標額の八割に迫るまでに回復しました。

本年は、震災の復旧、復興が思うように進まず、未だ原発事故が収束しない中でも、昨年の春季募金額より増加し、別表のように約五、六〇九万円のご寄附をいただきました。多くの県民

の皆さま及び関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

緑の募金の使途につきましては、八月二七日に開催した「緑の募金運営協議会」においてご検討いただいたところであり、各地域の緑化推進委員会との緑化事業や「緑の少年団大会」をはじめ「うつくしま育樹祭」など各種イベントの開催、また学校やボランティア団体等の緑化活動の支援など、本県の緑化運動に役立ててまいります。

II 秋季緑の募金活動の実施について

秋季緑の募金活動は九月一日から十月三十一日までの二カ月間を重点活動期間として実施いたします。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

募金に関するお問い合わせは、福島県緑化推進委員会または各地域の緑化推進委員会までお尋ねください。

〒九六〇―一八〇四三
福島市中町五―一八（林業会館内）
（公社）福島県森林・林業・緑化協会
福島県緑化推進委員会
TEL〇二四―五二四―一四八〇
FAX〇二四―五二二―三二四六

平成25年度春季緑の募金実績

単位：円

市・地方緑化推進委員会	募金目標額	募金実績額	達成率 (%)	募金の種類				
				街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金
福島市緑化推進委員会	9,300,000	3,818,130	41.1	88,055	0	1,361,266	775,317	1,593,492
伊達市緑化推進委員会	2,300,000	2,561,296	111.4	0	2,010,510	246,013	248,122	56,651
伊達郡緑化推進委員会	1,400,000	1,544,857	110.3	50,018	1,044,301	259,000	154,746	36,792
二本松市緑化推進委員会	2,100,000	488,823	23.3	0	0	488,823	0	0
本宮地域緑化推進委員会	1,300,000	1,712,656	131.7	59,150	928,500	489,211	115,077	120,718
国土緑化郡山市推進委員会	11,100,000	10,474,755	94.4	1,896	6,891,730	799,356	873,182	1,908,591
須賀川市緑化推進委員会	2,600,000	0	0.0	0	0	0	0	0
国土緑化岩瀬地方推進委員会	600,000	677,351	112.9	1,234	483,988	5,835	106,692	79,602
田村地方緑化推進委員会	2,600,000	3,382,050	130.1	44,167	2,358,550	410,968	502,400	65,965
国土緑化石川地方推進委員会	1,800,000	1,936,298	107.6	337	1,080,500	294,288	219,992	341,181
白河市緑化推進委員会	2,200,000	711,479	32.3	0	0	550,539	160,940	0
国土緑化西白河地方推進委員会	1,600,000	1,985,896	124.1	15,013	1,332,000	425,769	198,220	14,894
国土緑化東白川地方推進委員会	1,500,000	1,251,800	83.5	521	873,970	184,078	171,580	21,651
会津若松市緑化推進委員会	4,500,000	5,372,909	119.4	42,844	3,488,860	512,000	714,278	614,927
両沼地方緑化推進委員会	2,000,000	1,833,634	91.7	1,364	1,619,133	30,000	183,137	0
会津耶麻地方緑化推進委員会	1,200,000	1,334,307	111.2	204	1,059,600	80,000	103,051	91,452
喜多方市緑化推進委員会	2,000,000	2,271,099	113.6	32,500	1,598,100	225,000	409,831	5,668
南会津地方緑化推進委員会	1,400,000	1,816,456	129.7	48,129	1,485,183	62,000	194,694	26,450
相馬地方緑化推進委員会	4,400,000	416,529	9.5	0	0	0	416,529	0
双葉地方緑化推進委員会	2,600,000	0	0.0	0	0	0	0	0
いわき市緑化推進委員会	11,500,000	11,877,111	103.3	37,946	8,505,234	1,231,914	1,606,204	495,813
小計	70,000,000	55,467,436	79.2	423,378	34,760,159	7,656,060	7,153,992	5,473,847
事務局	0	622,380	—	2,252	0	247,525	372,603	0
合計	70,000,000	56,089,816	80.1	425,630	34,760,159	7,903,585	7,526,595	5,473,847

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む。

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(6月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	8 (8~9)	△1	(0~0)	0	8 (6~9)	0	8 (6~9)	0
		10~13		並	スギ	10 (9~11)	0	9 (9~9)	0	9 (9~10)	0	10 (9~11)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	11 (10~12)	0	11 (11~11)	0	10 (9~11)	0	10 (9~12)	△1
				並	ヒノキ	15 (13~19)	1	28 (28~28)	*	14 (13~15)	0	17 (13~28)	3
		6.00	並	スギ	16 (15~19)	△1	8 (8~8)	0	15 (14~15)	0	14 (8~19)	△1	
			並	ヒノキ	26 (24~28)	0	(0~0)	0	21 (16~25)	0	23 (16~28)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	12 (10~16)	0	11 (10~13)	0	10 (9~11)	0	11 (9~16)	0	
		4.00	並	アカマツ	10 (8~12)	△1	(0~0)	0	9 (8~9)	0	9 (8~12)	△1	
		1.80	並		7 (5~8)	0	(0~0)	0	5 (3~8)	△1	6 (3~8)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	26 (26~26)	0	(0~0)	0	26 (23~28)	1	26 (23~28)	1
並				米マツ	29 (28~29)	0	26 (26~26)	0	27 (24~30)	1	27 (24~30)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	27 (25~28)	2	27 (25~28)	2	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	31 (28~34)	1	31 (28~34)	1	
70~90		8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
パルプ用材	-	-	並	マツ	4 (4~4)	0	(0~0)	0	3 (3~3)	0	4 (3~4)	0	
			並	広葉樹	5 (5~5)	0	(0~0)	0	6 (6~6)	0	6 (5~6)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)	0	(0~0)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)	0	(0~0)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)	0	(0~0)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

五月の原木市場への入荷状況は、前月比二二割減(前年比一八割増)の一九、七七一立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比二二割減(前年比二二割増)の一九、五二九立方メートルとなっている。
 六月の価格については、市場での引き合いが弱いことから、外材の一部を除き全体として弱含みである。



八百余年の歴史「会津田島祇園祭」

南会津農林事務所 吉田好幸

南会津町の国指定重要無形民俗文化財「会津田島祇園祭」は、田出宇賀神社と熊野神社の例祭で鎌倉時代から八〇〇年以上の歴史を持ち、県内外から多くの人が訪れます。祭はお党屋制度という独自の形態で運営され、一月のお千度参りに始まる一年がかりの大事事です。七月には三日間にわたり、大屋台の運行や子供歌舞伎の上演、御神楽の奉納などが行われ、期間中は職場でも笛の音や子供たちの「おーんさーんヤレかけろ」というかけ声を聞くことができます。

中でも二三日の早朝に行われる「七行器行列」(行器とは食物を入れて持ち運ぶ木製の器)は神前にお供え物を献上する儀式で、別名花嫁行列とも呼ばれ、数十人の花嫁さんがお党屋から神社までを歩く大変華やかなものです。今年は、新潟・福島豪雨災害復旧の応援に来ていただいている派遣職員の鹿児島県の真野さんと愛知県の鈴木さんも行列に参加しました(お二人とも男性なので花

嫁ではなく、写真のとおり凛々しい袴姿でした。念のため)。

当日は朝から土砂降りでしたが、地元の人によると『雨の年もあったが神社に着く頃には上がる』とのこと。予定を一時間繰り下げ九時頃出発し、当初傘をさしての行列となりましたが、話どおり神社に着く頃は雨も上がり、無事神事が執り行われました。

これから南会津は秋の観光シーズンを迎えます。皆さんも南会津の地で伝統文化や豊かな自然に触れてみてはいかがでしょうか。



表紙の写真



「共生」

平成24年度 第27回ふくしま
緑の写真コンクールで銀賞と
なった大橋吉一さん（郡山市）
の作品



「うねり」

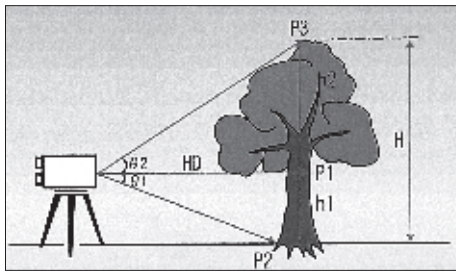
*講演会・十月十九日（土）
午後二時三〇分 福島市民報ビル
主催：福島県造園建設業協会
（一社）

ここ二、三ヶ月の新聞等で「森林再生と林業復活」を目指す様々な取り組みの記事が紹介されている。「森から変える日本委員会」「ブナ林の自然観察の森整備」また、消費者に国産材の良さを知らせるための「国産材マーケの創設」薪ストーブのブームをうけ「日本薪協会設立」等々。
縄文の時代から森林や里山は、私たちの日常生活に繋がりの深い環境であった。「里山」に長期的に育成されたアカマツの木は建材に。枝は燃料として燃やした灰は、カリウム肥料として畑に。林で採れる松茸や燃料としての炭は、現金収入となった。日本人の生活と里山は、うまく循環をしていた。それは、自然に対する日本人の畏敬や感謝の念が、里山との共存共栄の知恵を生み出していたからに違いない。俳句の季語にも「山笑う」「山滴る」など四季に詠われる山の表情も見逃せない。
その後、宅地造成、燃料の変化や化学肥料の普及、木材加工品の需要低下等生活様式の変化により、里山は荒廃し、森林にも人の手が入らなくなった。長い歴史の中で、森林は、様々な社会情勢により、荒廃と再生を繰り返してきたが、今は、乱伐ではなく、人の手が入らなくなってきたことで、荒廃という危機に直面しているのかも知れない。
しかし、「森づくりは未来を信じること。」その信念でc wニコルさんは、日本の森・里山の再生へと行動を起こしている。ニコルさんが何故日本の自然に惹きつけられたのか。その答えは、来る十月十九日福島市での講演会で、それぞれの耳で、心で生の答えを探してほしい。
そして、森林再生に懸ける様々な取り組みのうねりは、私たちに自然への畏敬と感謝の気持ちがある限り、必ずひとつとなる。（都）

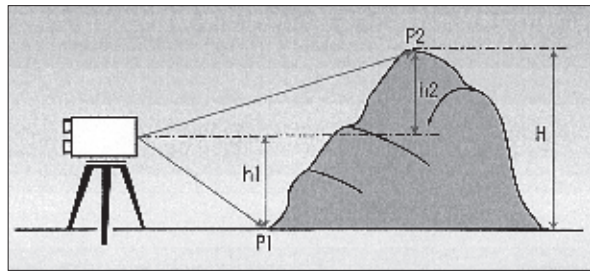
編集 福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
福島県農林業公社
森林総合研究所福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行 相馬 雅俊
発行人 陽光社印刷株式会社
（定価 一〇五円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

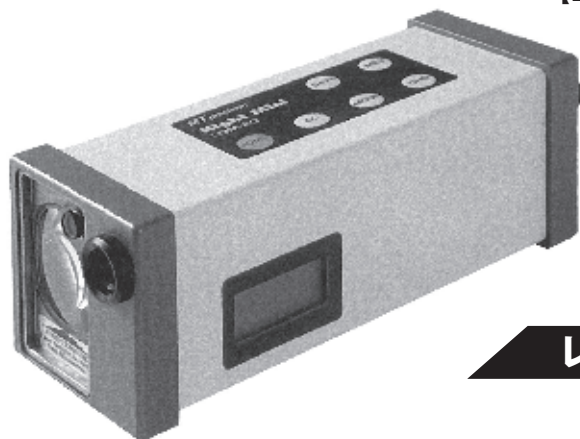


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



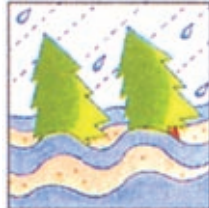
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



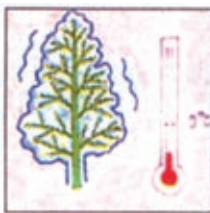
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

**野生獣類から大切な
植栽木を守る**

ヤシマレント

蜂さされ防止

ハチノックL (乗退治)
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る
住化グリーン®の林業薬剤**

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)



住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号 TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

チッパーシュレッダ



竹もOK!
SR3000-2
出力 22.3kW (質量1,330kg)
水冷ディーゼル
X379301020
¥3,543,750(税込)

プロソー



GZ3900EZ
排気量 39.1cm³ (質量4.4kg)
RSP 21BPX 967159403 ¥113,400(税込)
95VPX 967159303
HS 25AP 967159104
91VXL 967159204
HM 21BPX 967159404
95VPX 967159305



GZ4300EZ
排気量 43.1cm³ (質量4.4kg)
45cm(18")
RSP 21BPX 967160502 ¥140,385(税込)
95VPX 967159902
HM 21BPX 967160504
95VPX 967159904

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店
(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1